

令和 5 年 度  
運 営 に 関 す る 計 画  
最終評価



大阪市立北鶴橋小学校  
令和 6 年 2 月

1 学校運営の中期目標

現状と課題

【安全・安心な教育の推進】

基本的な方向 1 安全・安心な教育環境の実現

- ・ 月 1 回に生活指導連絡会兼いじめ・不登校対策委員会をもとに重篤ないじめ案件の起こりにくい環境を作り上げるための「予防的生活指導」を行ってきた結果、いじめ案件について見つけ出しやすい環境、児童が話しやすい環境ができ、その対応についても組織的に行う素地ができてきている。その結果、現在、新しい基準によるいじめ案件は出ているもののすべてを解決に向けることができ、重篤ないじめ事案が起きにくい学校とすることができている。

基本的な方向 2 豊かな心の育成

- ・ 「いいところ見つけ」週間など、互いに認め合う活動について重点的に取り組んできた結果、「人の役に立つ人間になりたい」「友だちのいいところを見つけられる」といった児童が育ってきている。一方で、成功体験が少ないせいか「自己肯定感」の低い児童もみられる。今後は、自分に自信を持ち「自己肯定感」を高める取り組みについても積極的に行っていくこと必要となっている。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上

- ・ 習熟度別少人数学習や放課後支援、タブレットドリルの活用を通して、算数科の学力向上を重点的に取り組んできた結果、基礎・基本の学力の向上につなげることができ、経年調査において全市のほぼ平均にまで引き上げることができた。しかしながら「活用」についてや国語力についてはまだまだ課題が多く、その課題の原因の一つに「認知力」があると考え、令和 3 年度より「コグトレ」に取り組んでいる。

基本的な方向 5 体力・運動能力向上のための取組の推進

- ・ 新型コロナウイルス感染症対策による体力の低下は喫緊の課題である。感染症対策がまだまだ必要な時期が続くような現状を踏まえた取り組みの充実が必要となっている。

【学びを支える教育環境の・充実】

基本的な方向 6 教育 DX (デジタルトランスフォーメーション) の推進

- ・ ICT を活用した授業デザインをしやすい教室環境は整ってきた。また、令和 3 年の取り組みにより ICT を活用した授業デザインに関する年間指導計画も作成できている。Microsoft Showcase School に認定されるなど先進的な取り組みを行ってきている。日々めまぐるしく変化していく社会環境に対応しながら、授業デザインについて研修を重ねていき、これからの Society5.0 を生き抜く児童をはぐくんでいくことが必要である。

基本的な方向 7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり

- ・ 校務支援システムの活用や会議・行事の精選により、全教職員が基準を働き方改革に関する条件を満たすことができている。ゆとりを持ちながら質の高い教育につなげていけるように PDCA サイクルによる計画が必要。

## 中期目標

### 【安全・安心な教育の推進】

#### 基本的な方向 1 安全・安心な教育環境の実現

- ・ 令和 7 年度の小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する割合を 90%以上にする。
- ・ 令和 7 年度の全国学力・学習状況調査の「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 85%以上にする。

#### 基本的な方向 2 豊かな心の育成

- ・ 令和 7 年度の小学校学力経年調査の「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童生徒の割合を 96%以上にする
- ・ 令和 7 年度の全国学力・学習状況調査の「自分には、良いところがありますか」に対して、肯定的に回答する児童生徒の割合を 77%以上にする。

### 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

#### 基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上

- ・ 令和 7 年度の全国学力・学習状況調査における平均正答率の対全国比を 1 以上にする。

#### 基本的な方向 5 体力・運動能力向上のための取組の推進

- ・ 令和 7 年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計点の全国比を 1 以上にする。

### 【学びを支える教育環境の充実】

#### 基本的な方向 6 教育 DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進

- ・ 授業日において学習者用端末を毎日使用した学校の割合を 100%にする。

#### 基本的な方向 7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり

「学校園における働き方改革推進プラン」における教員の勤務時間の上限（時間外勤務月 45 時間以内）に関する基準を満たす教職員の割合を 100%にする。

## 2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

### 【安全・安心な教育の推進】

#### 全市共通目標（小・中学校）

##### ○基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現

- ・ 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する割合を90%以上にする。
- ・ 年度末の校内調査において、不登校の児童の在籍比率を前年度より減少させる。
- ・ 年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。

#### 学校園の年度目標

##### ○基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現

- ・ 年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する割合を90%以上にする。

##### ○基本的な方向2 豊かな心の育成

- ・ 年度末の校内調査における「自分には、良いところがありますか」に対して肯定的な回答をする児童の割合を増加させる。

### 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

#### 全市共通目標（小・中学校）

##### ○基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上

- ・ 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を50.5%以上にする。
- ・ 小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.1ポイント上昇させる。
- ・ 小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。
- ・ 小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。

##### ○基本的な方向5 健やかな体の育成

- ・ 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を78%以上にする。

#### 学校園の年度目標

##### ○基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上

- ・ 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答をする児童の割合を50.5%以上にする。
- ・ 小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して肯定的に回答する児童の割合90%以上を維持する。

##### ○基本的な方向5 健やかな体の育成

- ・ 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な回答をする児童の割合を80%以上にする。
- ・ 年度末の校内調査の「決まった時間に寝ることができた」「朝ご飯をきちんと食べた」において肯定的な回答をする児童の割合を、それぞれ95%、80%以上にする。

### 【学びを支える教育環境の充実】

#### 全市共通目標（小・中学校）

- ・ 4年生以上において協働学習支援ツールを用いた学習を週1回以上実施する。
- ・ 「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準1を満たす教員の割合を90%以上にする。

#### 学校園の年度目標

- ・ 授業日において学習者端末を毎日使用する割合を100%にする。
- ・ 「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準1を満たす教員の割合を100%にする。

### 【その他】

## 3 本年度の自己評価結果の総括

### 【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】について

生活指導連絡会兼いじめ・不登校対策委員会において情報共有を行い、新しいいじめの定義に基づき学校全体でチームとして対応していくことができていた。また、年間2回の「いいところ見つけ週間」の実施など、学校全体での取り組みを行ってきたことが自尊感情の向上につながってきている。

### 【最重要目標2 未来を切り開く学力・体力の向上】について

「がんばる先生支援事業」を活用した「コグトレ（認知強化トレーニング）」の取り組みでは、3回のアセスメントを取り、児童の実態把握を行った。また、全学年で、朝学習や自主学習の時間に、デジタルドリルに継続的に取り組むようにした。こうした学校全体での取り組みの結果、経年テストにおける低得点率児童は減少してきている。

また、1年間継続して取り組んでいる「なわとびタイム」や、冬季の「かけあしタイム」の取り組みにより、児童が体を動かす機会を増やすことができた。

### 【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】について

校内研究・研修や「がんばる先生支援事業」での取り組みを通して、授業の中で効果的にICT機器を活用する機会が増えた。また、様々な取り組みを通して、児童のICT活用スキルが飛躍的に高まった。

教務主任を中心に校務支援システムを活用した校務のデジタル化が進み、平均時間外勤務時間を大阪市の約半分にし、それを維持し続けることができるなど「学校園における働き方改革」も進み、教職員がチームとしてゆとりを持った教育を行える学校づくりが進んでいる。

(様式例 2)

## 大阪市内立 北鶴橋小学校 令和 5 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
	C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標 1 安全・安心な教育の推進】</p> <p>全市共通目標(小・中学校)</p> <p>○基本的な方向 1 安全・安心な教育環境の実現</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する割合を 90%以上にする。</li> <li>・ 年度末の校内調査において、不登校の児童の在籍比率を前年度より減少させる。</li> <li>・ 年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。</li> </ul> <p>学校の年度目標</p> <p>○基本的な方向 1 安全・安心な教育環境の実現</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する割合を 90%以上にする。</li> </ul> <p>○基本的な方向 2 豊かな心の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 年度末の校内調査における「自分には、良いところがありますか」に対して肯定的な回答をする児童の割合を増加させる。</li> </ul>	3.5

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
<p>取組内容①【基本的な方向 1 安全・安心な教育の推進】</p> <p>いじめ・不登校アラートを設定し、生活指導連絡会兼いじめ・不登校・児童虐待対策委員会を毎月開催し、情報を共有しあいながら、個別対応ではなく学校全体で対応に当たるようにする。</p>	① 3.7
<p>指標</p> <p>生活指導連絡会兼いじめ・不登校・児童虐待対策委員会を毎月行い、情報を共有し、不登校アラートに対する学校対応の割合を 100%にする。</p>	
<p>取組内容②【基本的な方向 1 安全・安心な教育の推進】</p> <p>毎学期いじめについて考える日を設定し、いじめは、どんな理由があってもいけないことだと感じる機会を持つ。</p>	② 3.7
<p>指標</p> <p>児童アンケートで「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の項目で「思う」に回答する割合を 82%以上になるようにする。</p> <p>いじめについて考える日を毎学期設定し、各教室で話し合う時間を設ける。</p>	

<b>取組内容③【基本的な方向 2 豊かな心の育成】</b> 友だちのよいところや自分のがんばりを見つけて発表する場を設けたり、「よいところ見つけ」の強調週間を設けたりして、友だちからの声をもとに自分のよいところについて振り返られるようにする。	<b>③ 3.2</b>
<b>指標</b> 児童アンケートで「自分のよいところがわかりますか」の項目で「とても」「だいたい」と答える児童が80%以上になるようにする。 いいところ見つけ週間を年2回設ける。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
① 生活指導連絡会兼いじめ・不登校・児童虐待対策委員会を毎月行い、情報を共有し、不登校アラートに対する学校対応の割合が100%であった。 ② いじめについて考える日を1学期・2学期、3学期に各教室で話し合う時間を設けた。児童アンケートで「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の項目で「思う」に回答する割合が93.7%で中間評価の90.7%から3%上がった。 ③ いいところ見つけ週間を年2回設けた。児童アンケートで「自分のよいところがわかりますか」の項目で「とても」「だいたい」と答える児童が86.4%で中間評価の80.6%から5.8%上がった。	
次年度への改善点	
① 継続して取り組みを行う。遅刻の多い児童についても学校全体で考えていく必要がある。 ② 継続して取り組みを行う。いじめの認識と対応を行っていく必要がある。 ③ 継続して取り組みを行う。次年度もいいところ見つけ週間を実施し、友だちからの声をもとに自分のよいところについて振り返られるようにする。	

(様式例2)

大阪市立 北鶴橋小学校 令和5年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した C: 取り組んだが目標を達成できなかった	B: 目標どおりに達成した D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった
---	--

年度目標	達成状況
<b>【最重要目標2 未来を切り開く学力・体力の向上】</b> <b>全市共通目標(小・中学校)</b> <b>○基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上</b> ・ 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を50.5%以上にする。 ・ 小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母	<b>3.2</b>

<p>集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.1 ポイント上昇させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 90%以上にする。</li> <li>・ 小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 80%以上にする。</li> </ul> <p>○基本的な方向 5 健やかな体の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を 70%以上にする。</li> </ul> <p>学校の年度目標</p> <p>○基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答をする児童の割合を 50.5%以上にする。</li> <li>・ 小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して肯定的に回答する児童の割合 90%以上を維持する。</li> </ul> <p>○基本的な方向 5 健やかな体の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な回答をする児童の割合を 80%以上にする。</li> <li>・ 年度末の校内調査の「決まった時間に寝ることができた」「朝ご飯をきちんと食べた」において肯定的な回答をする児童の割合を、それぞれ 95%、80%以上にする。</li> </ul>	
---	--

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p><b>取組内容①【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】</b></p> <p>国語科を中心に基礎学力の定着を図り、教職員が連携して、一人一人の学力を向上させる。</p> <hr/> <p><b>指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 週に 1 回以上コグトレを行い、年度当初と中間、年度末にアセスメントを取り実態を把握する。</li> <li>・ ナビマを活用し、児童の基礎的な言語力（ひらがな、カタカナ、漢字の読み書き）を高める。1 年生はひらがな、2 年生はひらがなとカタカナの習得状況を把握し、習得率の向上を目指す。3 年生以上は週に 1 回以上、朝学習の時間などを活用してナビマ（国語科）に取り組む。</li> <li>・ 児童の学習状況を把握し、「大阪市学力経年調査」の国語科で標準化得点を 100 もしくは昨年度以上とする。</li> <li>・ 「大阪市小学校学力経年調査」の対象外である 1，2 年生は国語科の「標準学力調査」を実施し、児童一人一人の学力を把握・分析し、学習指導に生かす。</li> </ul>	3



<p><b>取組内容②【基本的な方向 5 健やかな体の育成】</b>          児童が進んで運動活動に取り組めるように、運動環境を整える。          (学習カード、運動週間、体育科とコグトレとの連携等)</p> <hr/> <p><b>指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1 日のうち 3 分～5 分間のなわとびタイムを設定し、運動の継続に取り組む。</li> <li>・ 学習カード (なわとびカードやかけ足カード) を配付し、自ら目標をもって運動に取り組めるようにする。</li> <li>・ 児童のアンケートにおける「外で元気に遊んでいますか」「体を動かすのが好きですか」の項目について「とても」「だいたい」と肯定的に答える児童の割合を 80 % 以上にする。</li> </ul>	<p><b>3.5</b></p>
<p><b>取組内容③【基本的な方向 5 健やかな体の育成】</b>          食育や保健指導、強調週間の設定を通して基本的な生活習慣を身に付けられるようにする。</p> <hr/> <p><b>指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日々の健康観察時に確認する「朝ごはんを食べた」の項目で「はい」と答える児童の割合を 95 % 以上にする。</li> <li>・ 睡眠に着目し、学校アンケートの「きまった時間に寝ることができていますか」の項目で「とても」「だいたい」と答える児童の割合を 80 % 以上にする。</li> </ul>	<p><b>3.2</b></p>
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>①・週に 1 回のコグトレタイムと 2 回のコグトレオンラインの宿題に取り組んだ。又、コグトレの意図を朝会で児童に伝えた。4 月と 9 月、2 月に全学年にアセスメントを取った。4 月と 2 月のアセスメントを比較すると、全学年が平均得点を上げた。教職員アンケートからコグトレの継続に 100 % の肯定的な意見を得た。</p> <p>・週に 1 回、朝学習の時間を活用して、国語科のナビマに取り組むことを継続した。1 学期末に 1・2 年生はひらがな、2～6 年生はカタカナの習得状況を調査し、結果を分析したものを教職員で共有し児童の実態把握を行った。</p> <p>・「大阪市学力経年調査」の国語科で標準化得点を 100 もしくは昨年度以上とすると指標を設定したところ、3～5 年生に関しては達成することができた。6 年生に関しては指標を若干下回ったものの、文章を書くことや昨年度苦手としていた情報の扱い方に関する項目が伸びた。</p> <p>・1, 2 年生は国語科の「標準学力調査」を実施した。2 学年ともに全国正答率を超えることができた。</p> <p>●「大阪市学力経年調査」において、漢字の読み書きは、学年が上がるにつれて大阪市平均を下回る部分があった。普段のノートや作文などで既習の漢字を正しく使うことができている児童も、少ないように感じる。また、説明文の読み取りに関する項目で正答率が低い。</p> <p>②・なわとびタイムは、プール期間やその他の行事があるときを除いて、継続して取り組めた。学級で大縄跳びをするなどの変化も見られた。また、かけ足カードを使ったかけ足タイムにも目標をもって取り組む児童が多い。この継続が、運動をする機会の確保にもつながった。</p> <p>・教員間で活動時間の確保に努めることを共有し、実行したことで、児童もなわとびタイ</p>	

<p>ムまでに運動場や中庭に出る習慣がついてきた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・運動委員会を中心に運動週間を実施し、外に出て遊んだり、活動したりしようという呼びかけを行うことができた。</li> <li>・児童アンケートにおける「外で元気に遊んでいますか」の項目で「とても」「だいたい」と答えた児童は90.9%、「体を動かすのが好きですか」の項目で「とても」「だいたい」と答えた児童は92.7%であった。これは上記の取り組みに加えて、各学級で声かけや、遊びの機会や内容の工夫に取り組んだ成果である。</li> </ul> <p>③・「朝ごはんを食べた」の項目で99.2%の児童が「はい」と答えており、ほとんどの児童が朝ごはんを食べて登校することができた。食わずに登校する児童は固定化されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「きまった時間に寝ることができていますか」の項目で「とても」「だいたい」と答える児童の割合は80.2%だった。毎日の健康観察や、日々の声掛けを行うことで、決まった時間に寝る意識は高まっているが、家庭の事情や習い事などによりできない児童が固定されているため、それぞれの環境に応じた個別指導が必要。</li> </ul>
<p style="text-align: center;">次年度への改善点</p>
<p>①・ナビマなどデジタルドリルの実施だけでは不十分な部分があった。文字を正しく読み書きする力、文章を正しく読み取る力などの基本的な学力の定着に関する取り組み（実際に『書く』活動等）を、日常的にすべての学年で継続的に行うことができる実践を工夫し、そのための時間の確保をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・算数科の計算においても定着が十分でない実態がある。週に数回でも継続してミニプリントなどに取り組む時間を設定できると良い。</li> <li>・朝・昼の短時間学習の検討</li> </ul> <p>②・なわとびタイムや、冬場のかけあしタイムは継続して取り組めるとよい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童が、なわとびを継続することの良さを知ることや、継続できるような取り組みを行うことができるとよい。</li> <li>・自分のなわとびを持ってくることを徹底したい。</li> <li>・運動週間では、運動委員会が放送等で呼びかけを行い、児童から児童へ発信できる機会を増やす。</li> </ul> <p>③・引き続き朝食を食べることが習慣化されていない児童への個別指導と、朝食の内容についての指導を継続していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・元気っこカードを活用し、決まった時間に寝る意識をつける。また、就寝時間の遅い児童を中心に、声掛けの機会を増やす。</li> <li>・保護者の協力が重要となるため、学級懇談や給食日より、保健日より、ホームページ等での啓発を継続し、家庭との連携を図る。</li> </ul>

## 大阪市内 北鶴橋小学校 令和 5 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<b>【最重要目標 3 学びを支える教育環境の充実】</b> <b>全市共通目標(小・中学校)</b> ○基本的な方向 6 教育 DX (デジタルトランスフォーメーション) の推進 ・ 4 年生以上において協働学習支援ツールを用いた学習を週 1 回以上実施する。 ○基本的な方向 7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり ・ 「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準 1 を満たす教員の割合を 90%以上にする。 <b>学校の年度目標</b> ○基本的な方向 6 教育 DX (デジタルトランスフォーメーション) の推進 ・ 授業日において学習者端末を毎日使用する割合を 100%にする。 ○基本的な方向 7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり ・ 「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準 1 を満たす教員の割合を 90%以上にする。	3.3

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<b>取組内容①【基本的な方向 6 教育 DX (デジタルトランスフォーメーション) の推進】</b> ICT 機器を活用した授業研究を行い、教員の活用スキルを高める。 ----- <b>指標</b> ICT 機器を活用した授業研究会を年 6 回以上行う。	3.6
<b>取組内容②【基本的な方向 7 教育 DX (デジタルトランスフォーメーション) の推進】</b> 協働学習支援ツール等の活用実技研修を開催し、教員の活用スキルを高める。 ----- <b>指標</b> 協働学習支援ツール等の活用研修を年 6 回以上行う。	3.1
<b>取組内容③【基本的な方向 8 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</b> 終業 17 時 30 分までに全員が退勤する「定時退勤の日」を設け、働き方改革を推進する。グループを活用することで校務の負担の偏りを緩和させる。 ----- <b>指標</b> 「定時退勤の日」を月 1 日設定する。 月の時間外勤務時間が 30 時間を超えないようにする。	3.2
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	

- ① ○学力向上につながる ICT の活用を掲げ、取り組んだ。教員が学びに有効なツールを選んで実践を行うことで、活用の幅を広げることができた。
- ② ○協働学習支援ツールの活用研修の回数は達成し、教員が進んで試行錯誤をしながらツールを活用していることで、活用スキルは高くなっている。
  - 授業や児童の学びにつながるような具体的な活用研修はあまり行うことができていなかった。
  - 教員が一年間を通してどのような場面で学習支援ツールを使用し、それが有効であったか、内容が個人内だけにとどまってしまった。
- ③ ・「定時退勤の日」を月に2日ほど設定することができ、終業17時30分までに全員が退勤することができている。4・5・6・12月は、月の時間外勤務時間が30時間を超える教職員が数名いたが、その他の月はいなかった。運動会・発表会などの行事や研究授業があると時間外勤務時間が増える傾向にある。児童の放課後指導や学校行事等の準備など、計画的に分担して行っていく必要がある。

#### 次年度への改善点

- ① 継続して取り組む。(来年度の研究が ICT の場合)
- ② ICT 教育実践の交流
  - ・学習での話し合い活動や、学びあい、個別の支援など、子どもの学力向上につながるような活用研修を行う。(児童用パソコンを使用した実践型の研修)
  - ・学年、習熟、専科などでどのような活用の仕方をしてきたかを共有する時間を設ける。(研究授業後の10分程度を利用する。)
  - ・Teams の教材共有、学校の共有フォルダ、発表ノートなどで作成した教材を残していく。
- ③ ・休憩時間を確保する。
- ・連絡事項を徹底する。
- ・教科・領域部会を適宜活用して、分担する。